

平成31年2月発行

全篤連だより

No. 31

発行所

(公財)全国篤志面接委員連盟

〒165-0026

東京都中野区新井3-37-2

電話 03-3389-9494

目次

| | | | |
|------------------------------------|---|------------------------|----|
| 年頭所感 会長 南野知恵子 | 1 | 理事会の開催 | 10 |
| 第31回全国篤志面接委員大会の開催 | 2 | 東 西 南 北 | 12 |
| 全国及び各矯正管区管内篤志面接委員研修 大会の実施 | 3 | 第3回国内交流研修旅行実施報告書 | 14 |
| 篤志面接委員教養訓練研修の実施 | 8 | 事務局から | 16 |
| | | 雑 記 帳 | 16 |



年 頭 所 感

明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、ご家族お揃いでご壮健に新年をお迎えになられたことと拝察いたします。

本年は、この春に今上天皇がご退位され、皇太子徳仁親王が第126代の天皇にご即位される予定と伺っており、まさに平成最後の年となります。平成という一つの時代が終わるとともに、新しい時代が始まる年でもあります。また、本年は、十二支で言えば最後の亥年に当たります。移り変わっていく時の流れに一つの区切りをつけ、一時代の終わりを告げる年ですが、それだけでなく、新しい時代の始まりに向けて準備をする年でもあります。

これらのことを思うとき、今年の年頭には例年になく身の引き締まるものを感じます。これまでのことを振り返るとともに、新しい時代の始まりに向けて改めて心を引き締め、これからの課題に立ち向かっていきたいと思います。

ところで、矯正施設における篤志面接活動については、皆様方のご尽力により概ね円滑に実施されており、その活動に深く敬意を表します。また、活動を支えていただいている矯正局を始めとする矯正関係機関の皆様方のご理解とご協力、それぞれの矯正管区篤志面接委員協議会の皆様方のご支援に対して、深く感謝を申し上げます。篤志面接活動が直面している現状には、いろいろな課題もあります。例えば、委員の高齢化や矯正施設の統廃合に伴う委員数の減少、再犯防止の推進や矯正指導・矯正教育の充実化等に伴う施設ニーズの変化などがありますが、これらの変化に対しても、これまで培った実績や篤志面接委員の皆様方の能力と工夫をもってすれば、柔軟に対応し施設の新たなニーズにも十分こたえられるものと確信しております。ただ、施設ニーズの変化を把握するためにも、施設職員との十分な情報交換により連携を深めていくことが求められています。

会員の皆様方には、新しい時代においても施設と社会との架け橋になっていただくべく、引き続きご尽力をお願いするとともに、私ども連盟としても、皆様方の活動を支えるべく、可能な限りの努力をしまいたいと考えております。

どうか、本年もよろしくお願い申し上げます。

公益財団法人全国篤志面接委員連盟 会長 南 野 知恵子

第31回全国篤志面接委員大会の開催

第31回全国篤志面接委員大会が、平成30年10月16日（火）午後1時から法務省大会議室において開催されました。全国各地からの篤志面接委員と法務省、近在の矯正施設の長など関係者約170名が一堂に会しました。

式典では、長年にわたる面接活動の功績があった委員に対する表彰があり、法務大臣から25名の篤志面接委員に対して感謝状が、連盟会長から20名の委員に対して表彰状がそれぞれ授与されました。会長の式辞、法務大臣及び矯正協会長からの祝辞、受賞者の謝辞、来賓紹介と祝電披露など式典はつつがなく執り行われました。

基調講演は、大会の前月に法務省矯正局長に就任された名執雅子氏が「矯正行政の現状と課題」という表題で話され、矯正が直面している現状と課題、特に、国、地方自治体、民間協力者が一体となって取り組んでいる再犯防止推進計画に関するお話や、人権擁護の対象として見た場合の「罪を犯した人」の問題という新たな視点からのお話など、参加者にとって大変分かりやすく、かつ興味深い内容でした。

個別研究発表は、4名の委員からそれぞれの指導経験を基にした個性的な発表が披露されました。発表に引き続き、これら4名の委員に2名の国職員を加えた6人をパネリストとして、「篤志面接活動の喜びを求めて」というテーマでパネルディスカッションが行われ、フロアからの発言も含め、活発な意見交換が行われました。

なお、大会の詳細な様子は、記録誌又は刑政誌の平成30年12月号をご覧ください。



全国及び各矯正管区管内篤志面接委員研修大会の実施

○中 央（第31回全国篤志面接委員大会）

- 1 実施日 平成30年10月16日（火）
- 2 会 場 中央合同庁舎第6号館 法務省地下棟大会議室
- 3 参加者 計170名（篤志面接委員133名 その他関係者37名）
- 4 大会テーマ

「篤志面接活動の更なる充実と発展を目指して 一篤志面接活動の喜びを求めて」

5 内 容

（1）基調講演

「矯正行政の現状と課題」

講師 法務省矯正局長 名執 雅子 氏

（2）研究発表

・発表者 福島刑務所篤志面接委員 岩渕 敬

「篤志面接における法律相談のあり方」

・発表者 高松刑務所篤志面接委員 奈良 忠雄

「篤志面接委員としての喜び」

・発表者 京都医療少年院篤志面接委員 岡橋 聖舟

「ともにいのちかがやく」

・発表者 美保学園篤志面接委員 濱田 壽子

「過去は変わらなくても、未来を変える事は出来る」

（3）パネルディスカッション

議 題 「篤志面接活動の喜びを求めて」

司 会 全国篤志面接委員連盟理事 阿部 憲仁

パネラー 発表者4名の委員

立川拘置所処遇部首席矯正処遇官 小島 弘美 氏

茨城農芸学院教育・支援部門統括専門官 大橋 雅夫 氏

○第5回篤志面接委員初任者研修会

- 1 実施日 平成30年12月4日（火）・5日（水）
- 2 会 場 中央合同庁舎第6号館 法務省地下棟大会議室
- 3 参加者 計76名（篤志面接委員63名 その他関係者13名）
- 4 内 容

（1）一日目

講話Ⅰ 「矯正行政と篤志面接活動の意義」～刑事施設法を中心に～

講師 法務省矯正局成人矯正課企画官 齋藤 行博 氏

講話Ⅱ 「矯正行政と篤志面接活動の意義」～少年院法を中心に～

講師 法務省矯正局少年矯正課企画官 日笠 和彦 氏
講話Ⅲ 「篤志面接活動の歴史・制度と現在の課題」

講師 全国篤志面接委員連盟理事長 室井 誠一

班別討議Ⅰ

講話Ⅳ 「面接指導技術」

講師 東京未来大学こども心理学部長 出口 保行 氏

(2) 二日目

講話Ⅴ 「篤志面接活動の施設実務」

講師 府中刑務所首席矯正処遇官 矢田 豊 氏

講師 多摩少年院首席専門官 曾和 浩 氏

班別討議Ⅱ 精神的煩悶・個人面接・各種指導等の8班に分かれて討議

○第30回札幌矯正管区管内篤志面接委員研修札幌大会

- 1 実施日 平成30年7月19日(木)・20日(金)
- 2 会場 札幌ビューホテル大通公園「ピアリッジホールB」(札幌市)
- 3 参加者 計116名(篤志面接委員70名 その他関係者46名)
- 4 内 容

(1) 講演

「依存症の心理～やめられない心理とその対応～」

講師 北里大学医学部精神科学講師

北里大学東病院精神神経科医師 澤山 透 氏

(2) 研究討議(班別討議)

○第60回仙台矯正管区管内篤志面接委員研修会

- 1 実施日 平成30年7月13日(金)
- 2 会場 ホテルキャッスル(山形県山形市)
- 3 参加者 計100名(篤志面接委員55名 その他関係者45名)
- 4 内 容

(1) 講演

「“竹中流”コミュニケーション術 釈放前指導を通して感じたこと、考えたこと」

講師 モダンボーイズCOO/謝罪マスター 竹中 功 氏

(2) 自由討議

テーマ 「社会復帰へのよりよい篤志面接活動を目指して」

討議課題 「被収容者と社会をつなぐ懸け橋としての私の役割」

○第60回東京矯正管区管内篤志面接委員研究協議会

- 1 実施日 平成30年11月27日(火)
- 2 会場 さいたま新都心合同庁舎2号館5階大会議室

3 参 加 者 計 1 8 8 名 (篤志面接委員 1 1 0 名 その他関係者 7 8 名)

4 内 容

(1) 講 演

「犯罪者の社会復帰と、今、篤志面接委員に求められているもの」

講師 全国篤志面接委員連盟常任理事 大川 哲次 弁護士

(2) 個別発表

・発表者 新潟刑務所篤志面接委員 川上 克義

「再犯防止に向けた特別改善指導“就労支援指導”について」

・発表者 新潟少年学院篤志面接委員 本間 恵子

「少年たちとのクラブ活動で目指していること」

(3) 自由討論会 1 3 グループ

「クラブ活動等を通じた情操教育」(2 グループ)

「家族関係改善に向けた働き掛け」

「改善指導・特定生活指導における篤面の関わり」

「高齢・障害者の問題を抱えた対象者への働き掛け」

「再犯・再非行者に対する働き掛け」

「釈放前指導・出院前指導における篤面の関わり」

「職業倫理と就労に向けた働き掛け」

「大川哲次氏の講演を受けて」

「篤面活動の充実化に向けた取組」(2 グループ)

「篤面活動を通して得られたもの」(2 グループ)

○平成 3 0 年度名古屋矯正管区管内篤志面接委員研究協議会

1 実 施 日 平成 3 0 年 1 1 月 9 日 (金)

2 会 場 アオッサ 8 階県民ホール (福井県福井市)

3 参 加 者 計 1 1 8 名 (篤志面接委員 7 7 名 その他関係者 4 1 名)

4 内 容

(1) 記念講演

「人とひょうたん」

講師 全日本愛瓢会 名誉会長 森 義夫 氏

(2) 研究発表

・発表者 富山刑務所篤志面接委員 川越 教寛

「ただひたすら」

・発表者 岐阜刑務所篤志面接委員 鷺見 明俊

「高齢者処遇 (健康体操) ～高齢受刑者の健やかな老いを目指して～」

・発表者 豊橋刑務支所篤志面接委員 村松 史子

「篤志面接委員の喜び『再犯防止に資する篤志面接活動の在り方』」

・発表者 宮川医療少年院篤志面接委員 吉岡 勝裕

「篤志面接活動の喜び」

○平成30年大阪矯正管区管内篤志面接委員研究会

- 1 実施日 平成30年6月14日(木)
- 2 会場 大阪商工会議所 地下1階会議室(大阪府大阪市)
- 3 参加者 計188名(篤志面接委員121名 その他関係者67名)

4 内 容

(1) 講演

「明石市における更生支援の取組」

講師 明石市理事(更生支援担当) 青山 純 氏

(2) 体験発表

進 行 奈良少年院篤志面接委員 大川 哲次

・発表者 大阪刑務所篤志面接委員 梶川 伸

「二つのお願い」

・発表者 神戸拘置所篤志面接委員 野々村実夫

「再出発へのエール」と「出会いの不思議なちから」

・発表者 交野女子学院篤志面接委員 北村 文子

「少女たちと歩く道」

○第31回広島矯正管区管内篤志面接委員研究協議会

- 1 実施日 平成30年10月25日(木)
- 2 会場 リーセントカルチャーホテル(岡山県岡山市)
- 3 参加者 計107名(篤志面接委員53名 その他関係者54名)

4 内 容

(1) 研究発表

・発表者 広島刑務所篤志面接委員 宇田 辰彦

「点訳指導を通じて」

・発表者 美保学園篤志面接委員 万木 秋弘

「あすへ向かって」

(2) 講演

「ハンセン病問題から学ぶ」

講師 長島愛生園歴史館 学芸員 田村 朋久 氏

○第57回高松矯正管区管内篤志面接委員研究協議会

- 1 実施日 平成30年10月18日(木)
- 2 会場 阿波観光ホテル3階「ロイヤルパレス」(徳島県徳島市)
- 3 参加者 計70名(篤志面接委員36名 その他関係者34名)

4 内 容

(1) 分科会

テーマ「篤志面接活動の充実強化について」

- ・第1分科会【A】 参加者13名
- ・第1分科会【B】 参加者15名
- ・第2分科会 参加者18名

(2) 講演

「共に生きるよろこび」

講師 真言宗御室派願成寺 住職

社会福祉法人白寿会 理事・本部長 大西 智城 氏

○平成30年度福岡矯正管区管内篤志面接研究会大分大会

- 1 実施日 平成30年11月21日(水)・22日(木)
- 2 会場 コンパルホール3階 多目的ホール他(大分県大分市)
- 3 参加者 計169名(篤志面接委員79名 その他関係者90名)
- 4 内容

(1) 分科会

刑事施設5施設、少年施設3施設の8つのグループに分かれて研究討議

- ・第1部(共通テーマ)

「再犯防止のための施設職員との連携について」

- ・第2部(選択テーマ)

「篤志面接委員の後継者の発掘と育成について」

「被害者に対する意識をどう植え付けるか」

「少年法の年齢が引き下げられた場合について」

「篤志面接委員と更生保護施設等との連携について」

(2) 記念講演

「ほめる達人!『笑顔・挨拶・元気』」

講師 ほめる教育研究所 代表 竹下 幸喜 氏

篤志面接委員教養訓練研修の実施

札幌矯正管区管内篤志面接委員協議会

- 1 実施日時 平成30年11月29日(木) 午後2時～同4時
- 2 実施場所 フォーポイントバイシェラトン函館(函館市)
- 3 参加人員 計45名(篤志面接委員39名 国の職員6名)
- 4 演 題 「これからの時代に人間と人工知能はどう付き合っていくべきか」
- 5 講演者 公立はこだて未来大学教授 松原 仁 氏
- 6 講演内容
 - (1) 人工知能の定義及び歴史
 - (2) 人工知能と人間
 - (3) 人工知能の創造性
 - (4) 人工知能が人間を超えたとき
 - (5) 人工知能と人間の新たな関係
 - (6) 機会の進歩の影響
 - (7) 人間と人工知能のこれから
- 7 所感・参加者の感想

- 人工知能では代替できない、人間の心に関する活動を行う我々篤志面接委員にとって、その活動の後押しとなる内容であった。
- 指導技術の向上を図る上で、新たな目を開かせる内容であった。
- 現在を生きる人間として大変勉強になりました。
- 講演内容自体は興味深いものであったが、実際の篤志面接活動の体験談等を聞いてみたい。
- 興味ある内容であったが、篤志面接活動にどのように関連付けていくべきかが難しいと感じた。

仙台矯正管区管内篤志面接委員協議会

- 1 実施日時 平成30年11月2日(金) 午後1時30分～同3時
- 2 実施場所 マリオス盛岡地域交流センター(盛岡市)
- 3 参加人員 計47名(篤志面接委員43名 国の職員3名 講師1名)
- 4 演 題 「人間の業・性とどのように向き合うか
・・原敬「宝積」に秘めた大きな心・・」
- 5 講演者 「原敬を想う会」事務局長 木村 幸治 氏
- 6 講演内容

講師は、保護司と犯罪被害者担当保護司の両者の経験から更生保護の具体的理論と人間の

業・性は誰もが持っている原因（要因）とその結果ととらえ、豊富な経験による加害、被害の事例をかみ合わせて解説した。また、盛岡出身の内閣総理大臣 原敬の筆舌尽くせぬ辛い経験を生かしての大成、心情、悟りとした「宝積」の意味は、更生保護の神髄に触れる言葉である旨の講演であった。

7 所感・参加者の感想

普段、保護司の面接では、主に加害者を担当する機会が多いが、被害者への面接を担当した経験も踏まえ、成功や失敗の事例を通して、何が功を奏したのか学んだことは、今後の篤志面接に大いに役立つと思った。

原敬の艱難辛苦を乗り越えた生き方や、「宝積」の意味が更生保護の意義につながることに強く感心した。

最後に、面接対象者と対峙する時は、理論も大事であるが、何よりも「人間味を持った人間」であることが大切であるという言葉に共感を得た。

名古屋矯正管区管内篤志面接委員協議会

- 1 実施日時 平成30年9月10日（金） 午後2時～同4時10分
- 2 実施場所 名古屋合同庁舎第3号館 7階会議室
- 3 参加人員 計48名（篤志面接委員41名 国の職員7名）
- 4 演 題 「再犯防止対策について」
- 5 講演者 名古屋矯正管区総務課 更生支援担当 板倉 尚美 氏
- 6 講演内容

再犯防止対策について、各種制度に関する説明がなされたほか、中部地方の各地方自治体における再犯防止の取組に関する最新の情報提供があった。

参加者からは、国の再犯防止推進計画における115の具体的な取組内容について質問が寄せられたほか、所属施設における再犯者と面接した際の体験が発表されるなど、関心の高さが伺われた。

7 所感・参加者の感想

国の再犯防止施策について、平成24年以降の各種取組が分かりやすくまとめられていたほか、再犯防止推進法の内容について、イメージしやすい講義内容となっていた。

実施したアンケートには、「国の施策が理解できた」、「わかりやすい説明だった」等肯定的な感想が多い一方、就労支援といった再犯防止のための具体的な施策に関して、さらに詳しく聞きたいという意見も多く寄せられたことから、今後の参考としたい。

平成30年度第2回理事会(臨時)の開催

平成30年10月17日午前10時から法務省矯正局会議室において開催された。主な議案は次のとおり。

議案1 第31回全国篤志面接委員大会の総括の件

- 前日から当日までの2日間にかけて開催された全国大会に関する総評を、式典、基調講演、研究発表、パネルディスカッション、その他に関して各理事からいただいた。

総評として、基調講演は、矯正局長の豊富な行政経験と大局的な視点から分かりやすい内容で、矯正の現状と課題に関する理解が深まった、また、研究発表はそれぞれの委員の個性的で意欲的な活動に関して発表がなされ、パネルディスカッションもフロアを含めて盛り上がりのある意見交換がなされた、と積極的な評価がなされた。

議案2 第3回理事会(定時)及び第2回評議員会(臨時)の召集の件

- 次回の理事会及び評議員会を平成31年3月20日(水)に開催することについて、原案どおり承認された。

議案3 その他

- 特になし

報告事項 理事長から、前回理事会以降の職務執行状況について報告がなされた。その中で、賛助会員に対して差し上げていた記章のデザインを11月から新しいものに更新し、新規賛助会員に対して差し上げることが報告された。

平成30年度第2回常任理事会(臨時)の開催

平成30年12月5日午後1時から法務省地下小会議室において開催された。主な議案は次のとおり。

議案1 初任者研修の評価について

- 全体としては、講義と班別討議の双方を含め、大変有意義な研修であったが、講義資料が手元に配布されていればもっと分かりやすかった、一部の講義の内容に重複があり整理が必要ではないか、班別討議のまとめの発表方法について見直しが必要ではないか、といった意見も提出された。

議案2 報酬規程の一部改正について

- 理事長から、明年度に実施する予定の役員報酬の見直しに関して、現段階における報酬規程案の説明があり、意見交換がなされた。

議案3 施設賛助会費の配分割合の見直しについて

- 理事長から、施設賛助会員に関する本部事務経費が大きな負担となっている現

状に鑑み、次年度からこれまでの配分割合（施設：管区：本部の 7：2：1）を 6：2：2 に変更する必要性があることの説明があり、意見交換がなされた。

議案 4 役員候補者の育成について

- 理事長から、当連盟の（常任）理事としてふさわしい委員を比較的若い年齢のうちから育成していく必要があることについて説明があり、その具体的な育成方策について意見交換がなされた。

議案 5 その他

- 特になし

支え合う社会に

丸亀少女の家篤志面接委員長 山 田 妙 子

トントンカラリンと隣組，障子を開ければ顔なじみ，回してちょうだい回覧板，助けられたり助けたり。この歌のように，昔から助け合い，協力し合って生活していくという精神は根付いており，当たり前に行われていたと思います。

日本でボランティアという言葉が使われるようになりましたのは，昭和30年後半から40年代にかけてです。私は昭和63年から香川県では第1号のボランティアコーディネーターとして，ボランティアをしたい人や，ボランティアを必要とする人達の連絡調整・情報提供・相談援助などの活動を行ってまいりました。

車椅子介助，運転ボランティア，病院ボランティア，手話，点訳録音奉仕，布の遊具作り，独居老人訪問，話し相手ボランティア，古切手収集，等々。活動をする人も受ける人も共に楽しみながらの活動サポートです。全ての人が共に生きる（共生）中で，共に育ち（共育），そして苦しい時も悲しい時も共に楽しみに転化して分かち合う（共楽）という素晴らしい活動です。

永 六輔さんの「大往生」という著書の中に「生きているということは誰かに借りをつくること，生きてゆくということは，その借りを返してゆくということ」と書いておられました。まさに共生，共育，共楽ではないでしょうか。障害のある人も無い人も，子供も高齢者も，皆でお互いに支えあって生きていかなければなりません。誰もが思いやり，支えあっていく世の中でありたいものです。ボランティア活動とは，いつでもどこでも，誰でもが出来る活動です。

そのような話がある日の面接指導の時に，やんわりと致しました。三つ編みの可愛い少女は，にこやかに聞いておりましたが，「私は，金にならん様なことはしません」と，きっぱりと言いました。これから社会生活をしていく中で，喜怒哀楽とともにボランティア精神も必要だと学んでいくのではないかと，ポジティブに受け止めました。

災害の多いこの頃，ボランティア人口は益々増加していくと思います。誰もが思いやり支えあっていく世の中でありたいものです。そして何はともあれ，人と人とのふれあいの中で，心豊かに人生を送っていければと思います。

東 西 南 北

に まる いち はち かい おいたま 2018 会

全国篤志面接委員連盟理事・青葉学園篤志面接委員 安 田 裕 子

山形県米沢市の北東部に位置している、塀のない少年院「^{おいたま}置賜学院」は、平成29年10月22日に閉庁式を終え、70年の歴史を閉じました。15年前、私が初めて篤志面接委員として置賜学院に行った時は、70名程の少年達が在院していました。次第に少年の数が減り、一桁の人数になってしまいました。この間、実に多くのことを経験させて頂きました。各行事は勿論、日常生活においても先生方の、少年に対する熱意や苦勞がよく伝わり、先生方への敬意や謝意の念をもちながら面接活動に携わることができました。

また、置賜学院篤志面接委員協議会は教誨師会とは良好な関係をもち続けてきたと自負しております。両方の会に属する方も居られたので、総会は、学院の先生方にお世話になりながら同じ日に同じ場所で合同の会を行ってきました。私の場合は、篤面協議会所属のみなので、教誨師会の総会中は、オブザーバーとして会議の様子を見たり聞いたりできたので色々学ぶことができました。その会合が終わると懇親会をもち楽しい時間を過ごしてきました。学院の先生方、教誨師会、篤面協議会のメンバー約15～16名、一見堅そうな人達の集まりに見えますが、少年達の話から趣味、情報交換…そしてカラオケと…意外な人間再発見ができました。29年度末の最後の合同の会では、このまま「会」を失くしたくない、解散させたくないとの声が多く、「置賜学院」は無くなってしまいましたが、私達仲間の心の中には「置賜学院」は不滅！のものが輝いていました！

……ということで「おいたま2018会」を作りました。……研修を第一の目的として、年に1～2回無理のない範囲で旅行や話し合い、情報交換を続ける会にしたのでした。

平成30年11月9～10日、第1回の集いをもちました。「置賜学院」最後の院長を務められた吉田英司先生の勤務先「茨城農芸学院」を訪問させて頂きました。吉田院長自らが、学院の内外、院生全員による集団活動等案内してくださいました。少年院にも保護室があることも初めて知ることができました。見学させて頂き、驚いたり感激したり納得したりと世の中がぐーんと広がりました。そこでも、勤務されている先生方の熱意や苦勞を伺い知ることができました。その日の夜は、大洗のホテルで楽しく有意義な時を過ごしたことはいうまでもありません。

置賜学院は解体中で3月末には更地になるとのこと。形はなくなっても私達が得た輝く宝物を大切にしながらこれからの道を進みたいと思っています。

～第3回国内交流研修旅行実施報告書～

ちえちゃん(南野会長)一行 ～仙台に行ってきました

昨年11月5日から2泊3日間、全国の篤志面接委員等の有志59名で仙台研修旅行に行ってきました。宮城刑務所・東北少年院、及び青葉女子学院の参観と現地篤志面接委員や職員の方たちとの活発な意見交換会で交流を深め、被災地ボランティアの方と共に大川小学校跡地を訪問してきました。この3日間はハードな行程でしたが、予定の通り、皆元気に楽しんでまいりました。その様子を一部ご紹介いたします。

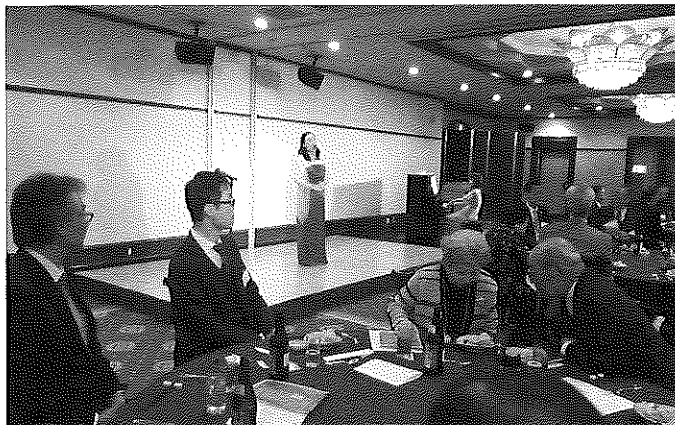


宮城刑務所 全員集合!!

意見交換会

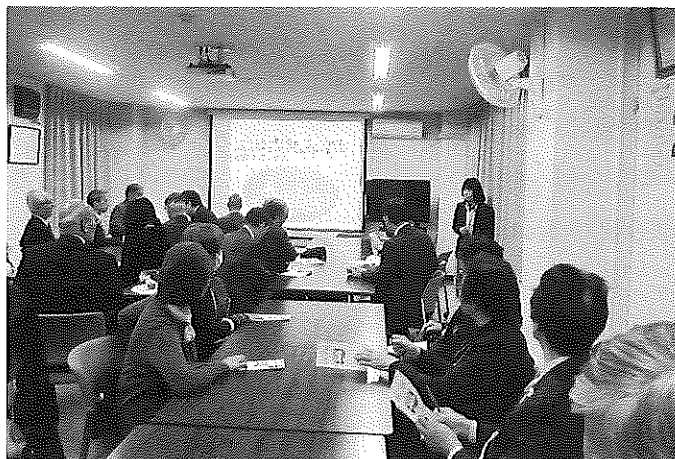
プロのオペラ歌手の生の唄声に心が洗われる。

歌手は佐藤良彦前理事長の姪の方でした。“驚き!!”



青葉女子学園

莊司みどり園長の解りやすくはぎれの
良い説明に皆感嘆！



松島観光

被災の影も消え，美しい背景で美女4
人で！！



大川小学校

心つまされる悲慘な小学校。会員の方
のお経と線香をあげて，皆で祈りをささ
げる。



～次回国内自主研修旅行のお知らせ～

今年は11月11日（月）から2泊3日で先送りとなっていた四国方面の松山刑務所所管大井造船作業場見学を予定しております。初めての方やお一人様での参加を迷っておられる方も是非この機会にご参加下さい。募集要領は新年度に施設からご案内いたします。他にはない魅力ある研修旅行を企画しておりますので，ぜひご検討をお願い申し上げます。

事務局から

○平成30年度秋の叙勲、褒章について

篤志面接活動の功績が認められ、次の篤志面接委員の方々が叙勲（瑞宝双光章）又は藍綬褒章を受けられました。（敬称略）

（瑞宝双光章）河上 紘子（愛光女子学園）

江原 幸男（山口刑務所）

（藍綬褒章）大谷 悦子（帯広刑務所）

杉浦 民扶（岡崎医療刑務所）

田中小夜子（愛知少年院）

宮本 秋義（姫路少年刑務所）

濱田 壽子（美保学園）

荒木 充子（人吉農芸学院）

○物故者

平成30年7月以降にお亡くなりになった篤志面接委員の方は、次のとおりです。

慎んでご冥福をお祈り申し上げます。（敬称略）

30年 8月 鈴木 竹八（福島刑務所）

9月 北林 民子（神奈川医療少年院）

巖水 敏哉（大分刑務所）

久田 友明（沖縄刑務所）

11月 吉田 栄二（帯広刑務所）

12月 田邊 仁（新潟刑務所）

31年 2月 村岡 洋一（札幌刑務所・月形刑務所）

雑記帳

皆様、明けましておめでとうございます。

本年も、「全篤連だより」をよろしく願いいたします。

今年は、南野会長の年頭所感にありますように、天皇の皇位継承が行われ、年号が改まる大きな節目となる年です。十二支で言えば、最後の亥年に当たります。まさに、新しい時代が始まります。

ところで、亥年は、子年で始まった十二支が終わる年で、一つのサイクルに終わりを告げる年ですが、それだけでなく、次のサイクルに向けて準備をするという意味もあるようです。もともと十二支に使われている漢字は、季節によって移り変わる植物の様子を表しており、「亥」は「草木の生命力が種の中に閉じ込められた状態」をいうとされます。まさに、次の始

まりに向けて種子を宿し、エネルギーを備えるのが亥年のようです。

一方、亥年をネットで検索すると、過去に大きな災害が発生していることが分かります。関東大震災（1923）、阪神淡路大震災（1995）という甚大な地震だけでなく、伊勢湾台風（1959）もこの年でした。年頭から縁起でもないとお叱りを受けそうですが、災害はいつ、どこで起こるかわかりません。最近も、大きな地震や豪雨、台風などの災害が日本の各地で発生しています。備えあれば患いなしとも言いますので、災害にも十分備えたいと思います。

今上天皇が美智子妃殿下とご成婚されたのも、60年前の亥年に当たります。おめでたいこと、喜ばしいことの多い亥年になりますよう、心から祈念したいと思います。